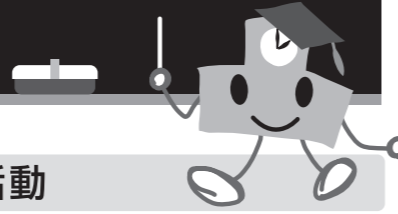


小学校の事例 南区 南の沢小学校

エコ委員会によるリサイクル活動を開始。地域イベント等で活動をアピール。

エコ委員会の呼びかけやPRで、一人一人の意識が向上。工夫や改善点を見つけていくことが、より発展に結びつき、責任感が生まれることに。



内容 これまでの活動を振り返り 新たな意識で活動

本校では今年から、エコ委員会に所属する児童を中心に、牛乳パックやリングブルなどのリサイクル資源の収集活動に取り組んでいる。

リングブルを回収して車いすを必要とする施設に贈呈する活動は、以前から行われていたが、収集をしていない年もあり、昨年までは収集量がいまいであった。そこで今年から委員会活動として正式に取り組むことにし、収集を取りまとめている業者に現在までの収集量を確認したところ、その時点での本校の収集量が約400kgあることがわかった。収集量が明らかになったことで、児童に「車いすに交換できるまで頑張ろう」という気持ち生まれ、委員による収集の呼びかけを全校児童に対して行っていた。

牛乳パックの回収も以前から行われていたが、現在は委員会の児童がクラスで集められた牛乳パックを集めるときに、きちんと角が開かれていないなどの

困った点を改善できるよう、開き方を図にしてまとめたポスターを各クラスに配布して呼びかけている。

活動が始まったばかりで、まだ試行錯誤している最中であり、今後、委員会の児童が自分たちで継続して取り組めることを見つけながら活動して欲しいと思っている。



「牛乳パックの開き方」ポスター

効果 委員会の活動をイベントでアピール

本校では、体育館を会場として行われる児童まつり「あつまれさわっこ」で、去年からエコに関するコーナーを2つ設けている。これは高学年で運営される児童委員会のオリエンテーション的な役割を担っていたコーナーに、昨年からのエコの視点を盛り込むようになったものだ。



牛乳パックリサイクルポスター

ひとつはエコ委員会のコーナーで「プルタブの重さあてクイズ」を行った。重さを変えたプルタブの袋を用意して、コーナーに来た児童にその重さを当ててもらおうクイズである。集めたリングブルを車いすや歩行補助用具に交換できるのだということを児童が知ることができるよう、ポスターを作成し掲示もした。

もうひとつは「ごみを減らそう!」と題し、美化委員会が担当した「ごみ分別クイズ」である。ごみをどう分別するのかをクイズとしており、実際に「ごみ」と「ごみ箱」を用意し、児童が実際に分別を体験できるようになっている。



プルタブ収集呼びかけポスター

今後 社会の一員であることを意識して活動

子供たちは活動の内容について、自分たちで気づいた点を工夫し、活動がスムーズになるような改善策を考えながら取り組んでいる。リングブル収集を委員会活動として行うことにより、子供たちに責任感が生まれ、改善しようという気持ちから「全校生徒に呼びかけよう」という行動へつながった。それは自分たちの活動が、障がいのある人やご老人に協力することにつながっているという気付きになり、「ごみにせず、何かに生かせる、何かの役に立っている」という意識が広がっている。

今後は、先輩が積み重ねてきたものを大切にして取り組んでいながら、自分も「社会の中の一員」であることを常に意識して欲しいと願っている。



牛乳パック収集スペース

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

学校のおまつりをとおして、「ごみ」として捨てる前に「分別」することが、誰かのためになることをクイズ形式で楽しみながら学ぶことができます。また、ポスターや収集スペースにより、牛乳パックの開き方やまとめ方、実際に収集量が増えていくようを知るなど、活動を「見える化」することで意識が高まり、積極的な行動につながっていると思います。自分の視点で考え工夫しようとする心が芽生え、家庭や学校生活で「ごみを減らすこと」になります。そんな意識をもって活動して欲しいです。